

次期SIPの課題及びBRIDGEの重点課題 の決定について

令和5年2月8日
内閣府特命担当大臣
(科学技術政策)



戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)第3期の課題決定

- 令和5年度から開始するSIP第3期に向けて、Society 5.0からバックキャストで課題候補を選定し、フィージビリティスタディを実施。
- 技術だけでなく、制度、事業、社会的受容性、人材の5つの視点から、社会実装に必要な取組を検討し、14課題を決定。

社会実装に向けた5つの視点

従来のプロジェクト

社会実装 例：無人自動運転サービスの実現

技術

社会実装に向けて技術開発以外の取組が進められていない

技術はできても、社会実装につながらないことも

SIP第3期

社会実装 例：無人自動運転サービスの実現

技術

制度

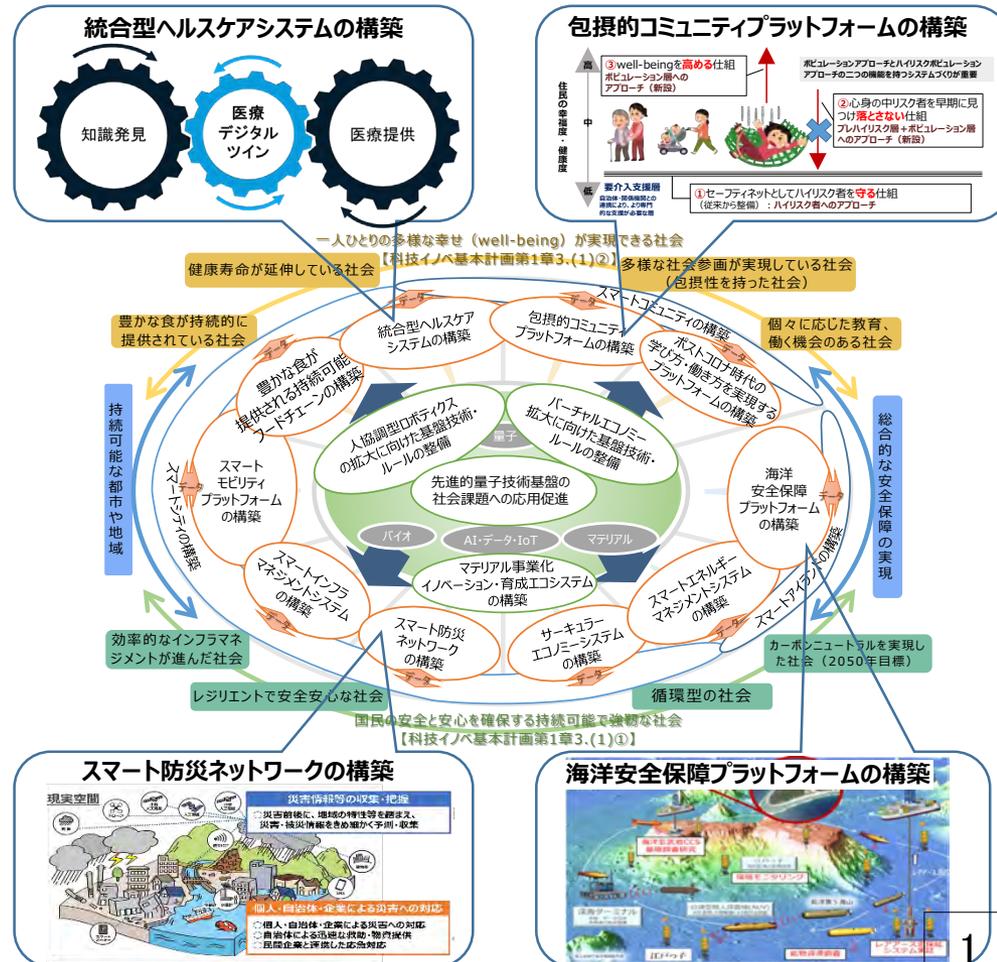
事業

社会的受容性

人材

- プログラムディレクター（PD）のもとで、府省連携・産学官連携により、5つの視点（技術、制度、事業、社会的受容性、人材）から必要な取組を推進
- 5つの視点の取組を測る指標として、TRL（技術成熟度レベル）に加え、新たにBRL（事業～）、GRL（制度～）、SRL（社会的受容性～）、HRL（人材～）を導入。

SIP第3期14課題の決定



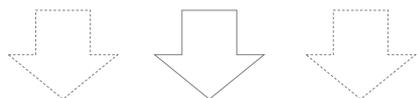
橋渡しプログラム（BRIDGE）の重点課題決定

○ 従来のPRISMの制度を見直し、個別技術領域を設定するのではなく、研究開発の成果を生かし、社会課題解決や新事業創出に「橋渡し」するための重点課題を設定し、各省庁の取組を推進。

<従来のPRISM>

個別技術領域における
各省庁の研究開発を加速

CSTIが各省庁の研究開発に予算をアドオン



AI領域の研究開発

量子領域の研究開発

バイオ領域の研究開発

インフラ・防災領域の研究開発

研究開発のフェーズを特定しておらず、
社会課題解決や新事業創出にすぐにつながらないものも

制度の見直し

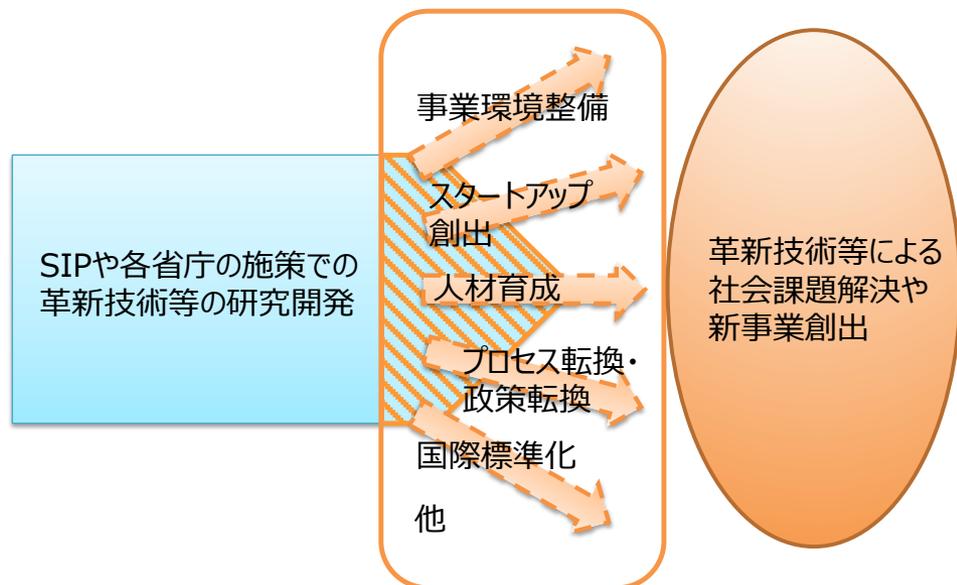


<BRIDGE>

研究開発の成果を生かし、社会課題解決や
新事業創出に橋渡しするための重点課題を
設定し各省庁の取組を推進



CSTIが重点課題に対応した
各省庁の取組に予算をアドオン



BRIDGEの重点課題

※研究開発と並行して、社会課題解決等に向けて実施すべき取組にBRIDGEの利用が可能